

目次

令和元年東日本台風の気象状況

令和元年東日本台風の概要
(参考)福島県を北上する阿武隈川の特徴
ダムによる洪水調節の状況

P.2~4

P.5~6

被害状況

福島県内の被害状況
土木施設の被害状況
主な被災箇所(河川、道路、砂防、港湾、下水道、公営住宅)

P.7

P.7~8

P.9~14

被災箇所の応急復旧

P.15~20

建設業等関連団体の対応

P.21~23

被災者への県営住宅等の一時提供

P.24

公共土木施設等災害査定

P.25~26

公共土木施設等復旧状況

P.27~28

福島県緊急水災害対策プロジェクト

P.29~44

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

P.45~46

市町村への支援

P.47~48

県北浄化センターの被災対応

P.49~50

各公共土木施設の漂着物処理

P.51~52

土木部の対応

復旧体制構築に向けた土木部の取組
自治法派遣職員の配置状況

P.53~54

P.55~56

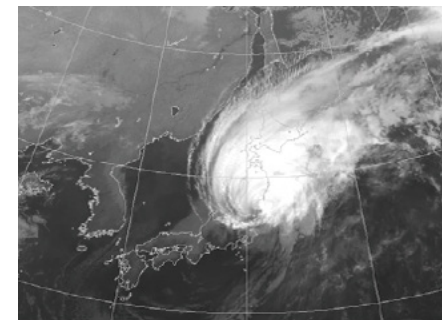
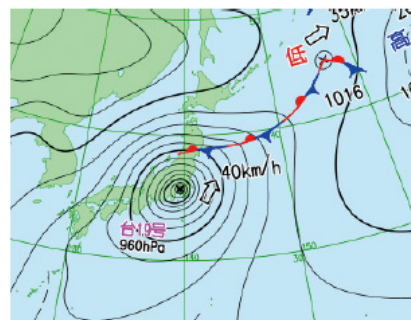
令和元年東日本台風の気象状況

令和元年東日本台風の気象状況

令和元年東日本台風(台風第19号)の概要

福島県では、10月11日から前線の影響で雨が降り出し、12日には令和元年台風19号の接近により昼過ぎから激しい雨が降り、特に台風の接近・通過に伴い、12日夕方から13日未明にかけては非常に激しい雨となり、局地的には猛烈な雨となった。11日15時から13日6時までの総雨量は、**福島県の広い範囲で200mm以上の大雨**となり、川内445.5mm、福島市鷲倉382.5mm、白河373.0mmと**10月1か月の平年値の2~3倍の雨量**となった。

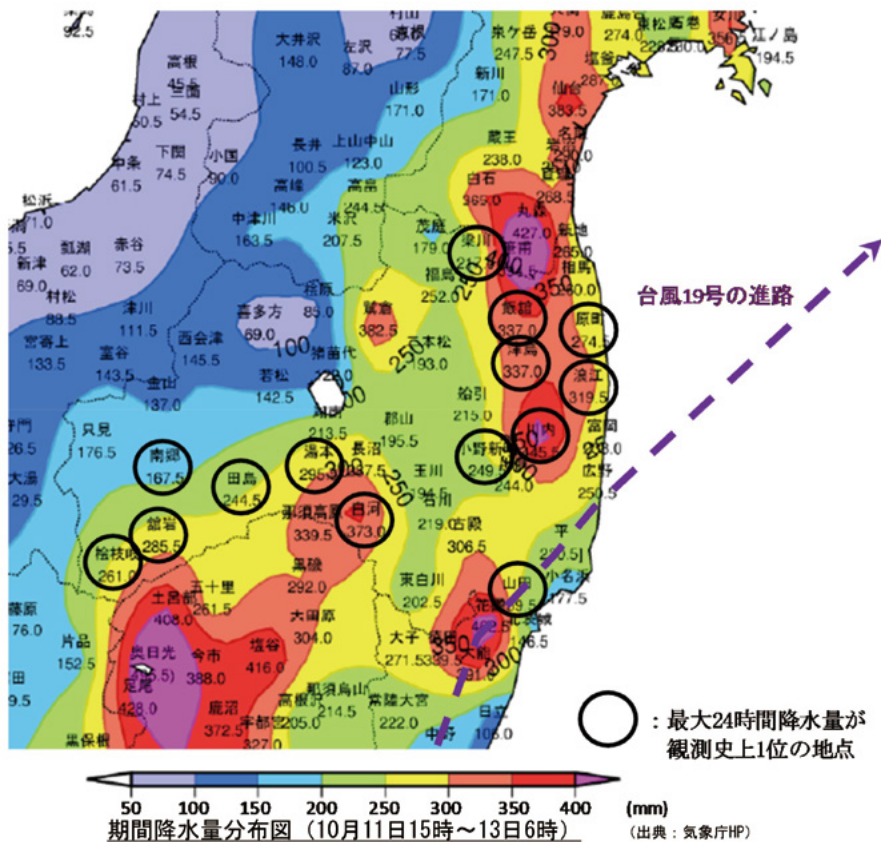
この台風による大雨や暴風により、人的被害や、阿武隈川などの決壊による住家の床上・床下浸水、土砂崩れによる住家の全壊が発生するなど、甚大な被害となった。



大雨特別警報発令市町村



中通り地方：矢祭町を除く28市町村
浜通り地方：13市町村全て
会津地方：会津若松市、柳津町、三島町、金山町、会津美里町、下郷町、南会津町、只見町、檜枝岐村の9市町村
計：県内59市町村中50市町村で発令



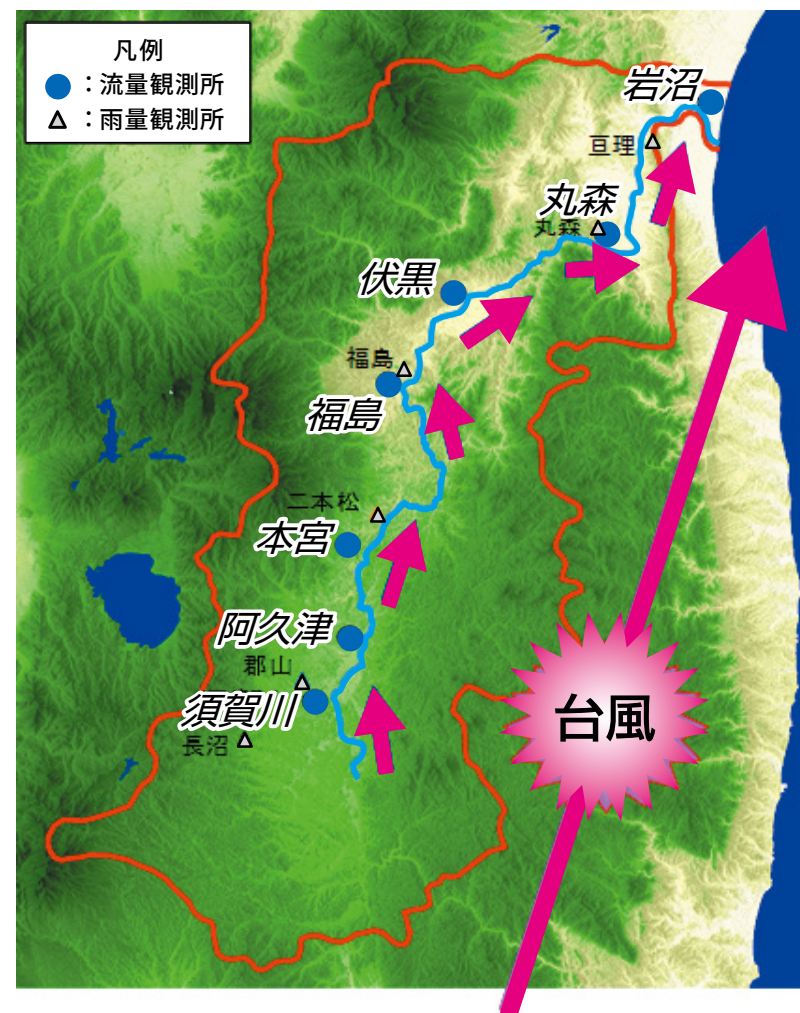
最大24時間降水量（観測史上1位）（10月12～13日）

観測地点名	市町村	降水量(mm)	統計開始年
川内	川内村	441.0	1976年
白河	白河市	371.0	1964年
津島	浪江町	332.0	1977年
飯館	飯館村	331.5	1976年
浪江	浪江町	314.5	1976年
湯本	天栄村	293.0	1988年
館岩	南会津町	279.0	1978年
原町	南相馬市	271.0	1976年
檜枝岐	檜枝岐村	257.5	1978年
山田	いわき市	257.0	2009年
小野新町	小野町	247.0	1976年
田島	南会津町	239.5	1976年
梁川	伊達市	213.5	1976年
南郷	南会津町	164.5	1976年

※県内40地点のうち14地点で観測

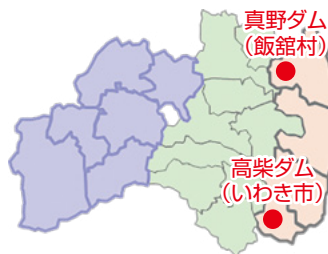
【参考】福島県を北上する阿武隈川の特徴

- ・阿武隈川は南から北へ流下しており、洪水の流下方向と台風の進路が一致しやすいため、台風性降雨の場合には洪水流出量が増大する傾向がある。
- ・台風の進路と洪水の流下方向が重なることで上流部から下流部までの最大流量がほぼ同時期に発生し、広範囲にわたる被害が一時期に集中する傾向がある。



出典：国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所2020業務概要P8

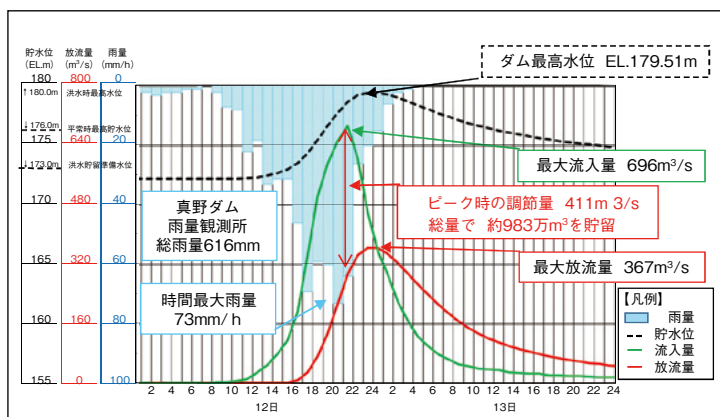
ダムによる洪水調節の状況



令和元年東日本台風の大雨による出水について、県管理ダム施設の洪水調節により、下流域の洪水被害が軽減されました。

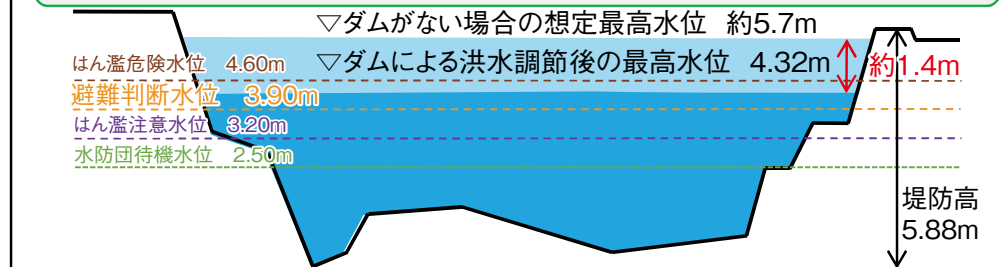
二級河川真野川水系真野川 真野ダムの洪水調節

- 真野ダム(相馬郡飯舘村)において、10月13日まで616mmの雨が降り、最大流入量696m³/s、最大放流367m³/sに達しました。総雨量、最大流入量及び最大放流量ともに、平成4年度からのダム管理開始以降最大を記録しました。
- 洪水調節を行ったことで、下流の小島田堰水位観測所(南相馬市)では、平成4年度からのダム管理開始以降最高の河川水位4.32mを観測しましたが、ダムがないときの最高水位は約5.7mと想定され、**水位を最大で約1.4m低下**させることができました。



真野ダム洪水調節および降雨の状況

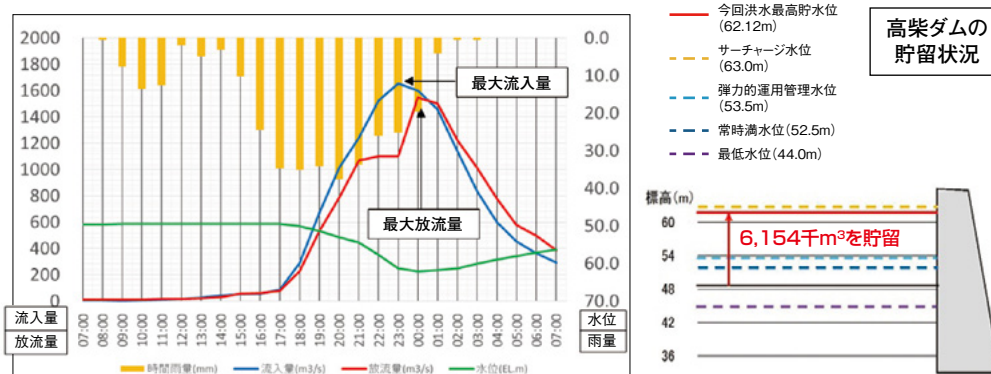
ダムがない場合、河川水位が最高で約5.7m(約1.4m上昇)となり、「はん濫危険水位」を超過、さらに堤防高まで約0.2mまで達したと想定されます。



河川断面図(小島田堰水位観測所付近)

二級河川鮫川水系鮫川 高柴ダムの洪水調節

- 高柴ダム(いわき市)において、令和元年東日本台風により10月13日まで320mmの雨が降り、最大1,711m³/sの流入量がありました。しかし、ダムに水を貯め最大放流量を1,660m³/sにすることにより、下流の洪水被害を防ぐことができました。
- ダムに貯まった水は、**6,154千m³**、**東京ドーム約5杯分**にもなりました。



高柴ダム洪水調節および降雨の状況



福島県内の被害状況

■被害状況(福島県災害対策課調べ7月14日現在)

●人的被害		●住宅被害	
死者	: 38人	床上浸水	: 1,022棟
行方不明者	: 0人	床下浸水	: 432棟
重傷者	: 1人	全壊	: 1,470棟
軽傷者	: 58人	半壊	: 12,311棟
		一部損壊	: 6,559棟

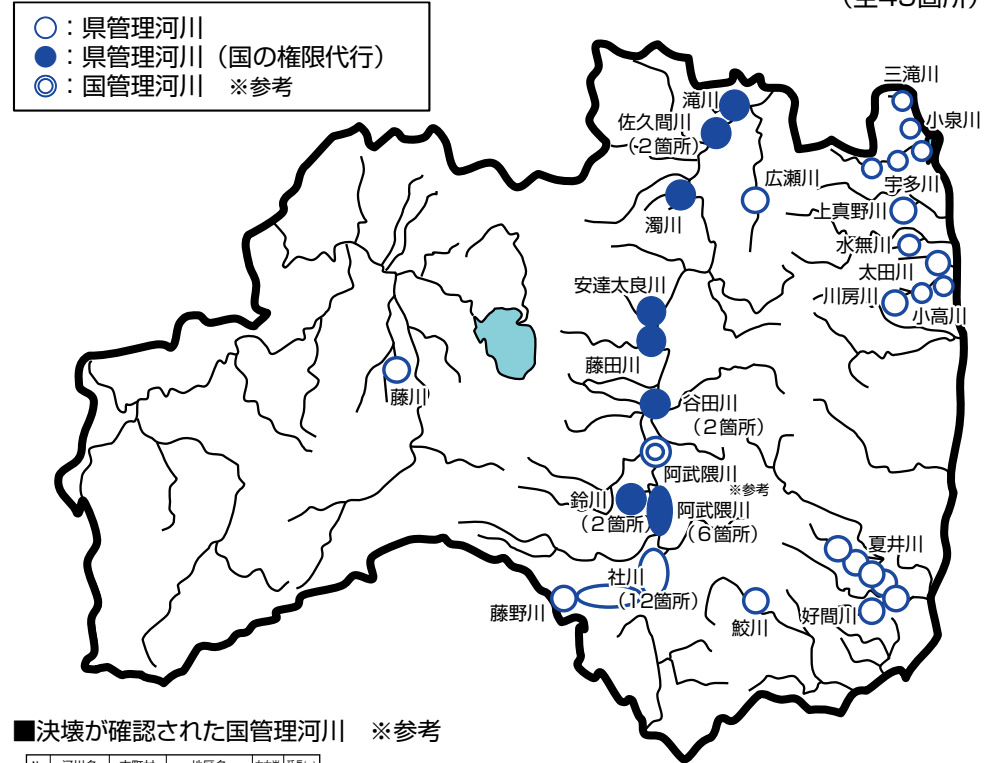
土木施設の被害状況

■土木部所管施設の被害状況(福島県土木部調べ7月31日現在)

●県管理道路
通行止めが最大で378箇所発生、361箇所解除済み。
●県管理河川
決壊箇所 49箇所(23河川 17市町村) 内、県対応33箇所(15河川 10市町村): 応急対策完了(11/7) 国直轄権限代行対応16箇所(8河川 8市町村): 応急対策工事完了(11/21)
●土砂災害
土砂崩れ発生箇所 152件(21市町村)
●港湾・漁港施設
港湾: 被災箇所4箇所(2港湾) 1箇所: 復旧完了 漁港: 被災箇所13箇所(3漁港) 2箇所: 復旧完了
●下水道施設
県北浄化センター(国見町) 水没のため機能不全状態 → 応急処理にて対応中
●県営住宅
床上浸水 5団地144戸、床下浸水 3団地 : 復旧完了

令和元年東日本台風による県管理河川堤防の決壊箇所

(全49箇所)



■決壊が確認された国管理河川 ※参考

No.	河川名	市町村	地区名	左右岸	延長(m)
1	阿武隈川	須賀川市	浜尾	左岸	50

■決壊が確認された河川一覧(県管理河川)

No.	河川名	市町村	地区名	左右岸	延長(m)
1	濁川	福島市	郷野目	左岸	15
2	広瀬川	伊達市	月館町下手渡	左岸	80
3	滝川		梁川町二野袋	右岸	62
4	佐久間川	桑折町	伊達崎	右岸	35
5			伊達崎	左岸	10
6	安達太良川	本宮市	本宮	左岸	15
7	谷田川	郡山市	下行合	右岸	40
8			上行合	左岸	30
9	藤田川		日和田	左岸	50
10	鈴川	鏡石町	河原	右岸	34
11			河原	右岸	69
12	阿武隈川		河原	左岸	97
13			諏訪町	左岸	100
14		玉川村	小高	右岸	50
15		矢吹町	陣ヶ岡	左岸	150
16			中沖	左岸	100
17			明新東	左岸	200
18	藤野川	白河市	関辺	左岸	45
19	社川		表郷堀之内	左岸	65
20			表郷中寺	左岸	10
21			表郷高木	右岸	90
22			表郷内松	左岸	120
23			表郷内松	左岸	260
24		棚倉町	一色	左岸	125
25			一色	右岸	150
26	社川	棚倉町	堤	左岸	35
27		石川町	沢井	左岸	150
28		浅川町	福貴作	右岸	50
29			福貴作	右岸	170
30			福貴作	左岸	330
31	藤川	会津美里町	橋丸	右岸	100
32	三滝川	新地町	福田	左岸	50
33	宇多川	相馬市	西山	左岸	200
34			南飯淵	右岸	100
35			北飯淵	左岸	78
36	小泉川		和田	左岸	20
37	太田川	南相馬市	益田	左岸	160
38	川房川		川房	左岸	50
39	小高川		小塚木	左岸	150
40			金谷	右岸	30
41	水無川		高倉	右岸	70
42	上真野川		橋原	左岸	40
43	夏井川	いわき市	平鏡岡	左岸	25
44			平下平窪四左門内	左岸	25
45			小川町	左岸	70
46			平下平窪中島町	左岸	30
47			平下平窪大念仏	左岸	30
48	好間川		好間町今新田	左岸	25
49	鮫川		遠野町滝	右岸	300

決壊箇所 49箇所(23河川 17市町村)
内、県対応 33箇所(15河川 10市町村) ○
国直轄権限代行 16箇所(8河川 8市町村) ●

令和元年東日本台風による通行規制

県管理道路の通行規制箇所数

令和元年10日19日からの台風19号 **341箇所**

令和元年10月25日からの大雨洪水警報 **37箇所**



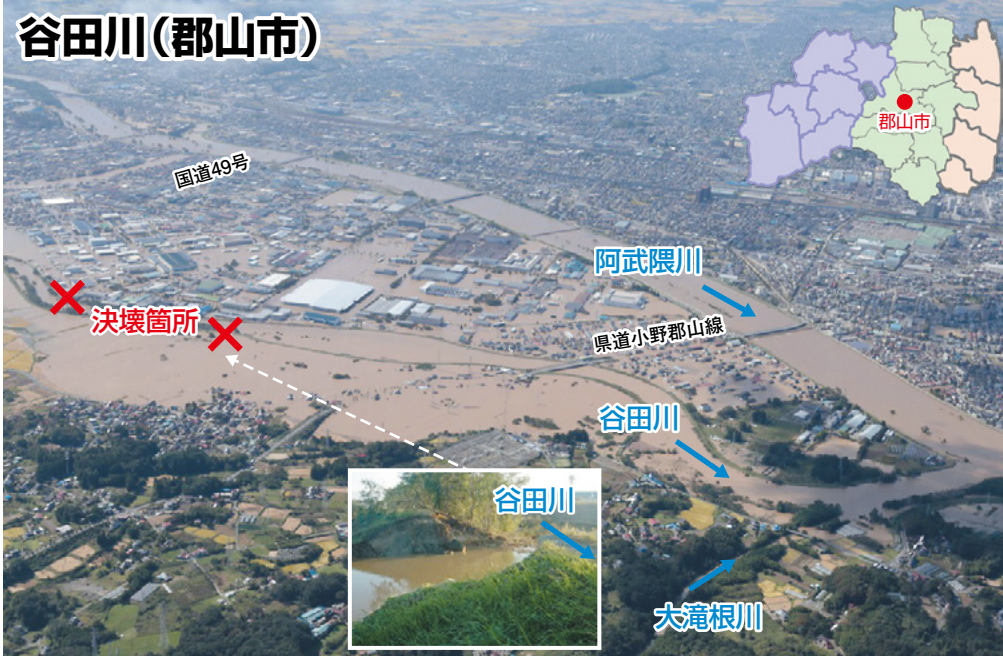
令和2年7月末時点解除箇所 **361箇所**

※R2.7末時点(規制継続 17箇所)



主な被災箇所(河川)





主な被災箇所(道路)



主な被災箇所 (砂防・漁港)

百目木(二本松市)



真野川漁港(南相馬市)



主な被災箇所 (下水道) (公営住宅)

県北浄化センター(国見町)



県営住宅鯨岡団地(いわき市)



応急復旧工事(河川)



いわき市を流れる夏井川において、河川の増水により堤体が流出し決壊。早急に大型土のうや土砂等により決壊箇所の応急復旧を実施しました。



相馬市を流れる宇多川において、河川の増水により堤体が流出し決壊。早急に大型土のうや土砂等により決壊箇所の応急復旧を実施しました。



白河市を流れる社川において、河川の増水により堤体が流出し決壊。早急に大型土のうや土砂等により決壊箇所の応急復旧を実施しました。



応急復旧工事(道路)



相双地域と中通り地方を結ぶ原町川俣線において、路面が陥没。全面通行止めとしていたが、早急に応急復旧工事を進め、片側交互での通行を確保しました。



南会津地域と中通り地方を結ぶ国道289号において、本線と並行して流れる伊南川が増水し、道路の半車線が流出。全面通行止めとしていたが、早急に応急復旧工事を進め、片側交互での通行を確保しました。

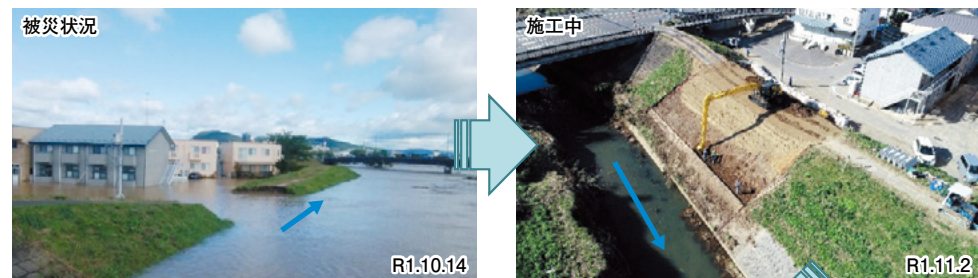
国直轄権限代行による河川の応急復旧

堤防が決壊した阿武隈川の県管理区間(矢吹町、鏡石町、玉川村)、滝川(伊達市)、佐久間川(桑折町)、濁川(福島市)、安達太良川(本宮市)、藤田川(郡山市)、谷田川(郡山市)、鈴川(鏡石町)について、国の直轄権限代行により応急復旧工事が実施されました。

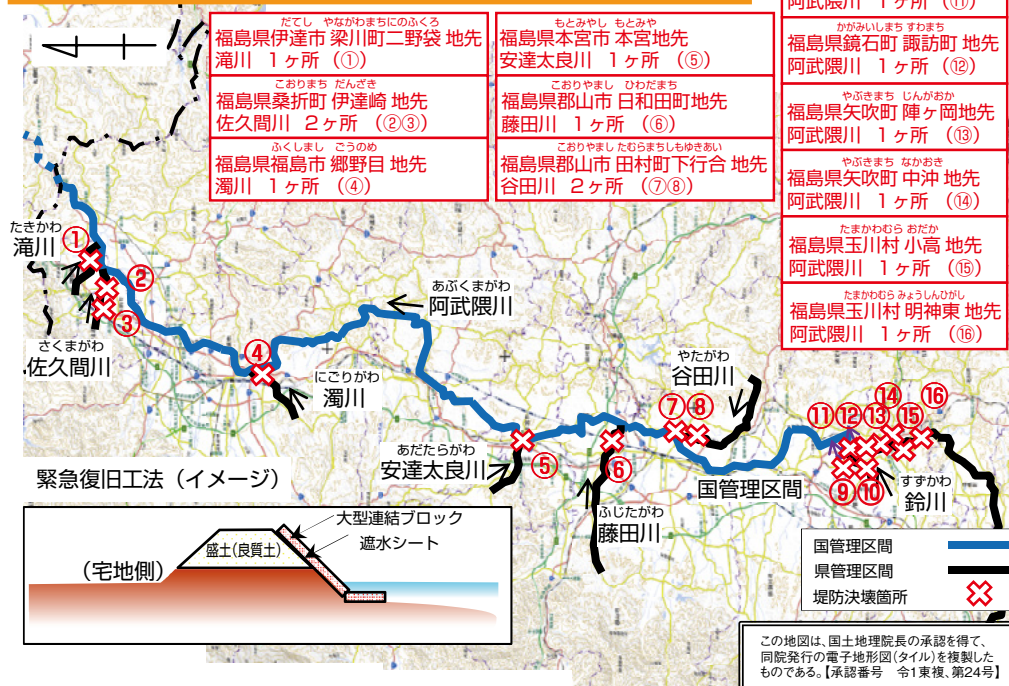
- ・河川数 8河川
- ・箇所数 16箇所

令和元年10月25日	福島県から国へ要請
令和元年10月25日	国直轄権限代行の実施決定
令和元年10月26日	応急復旧工事に着手
令和元年11月21日	全箇所完了

■濁川(福島市)



権限代行(福島県管理河川) 緊急復旧実施箇所



■滝川(伊達市)



■谷田川(郡山市)



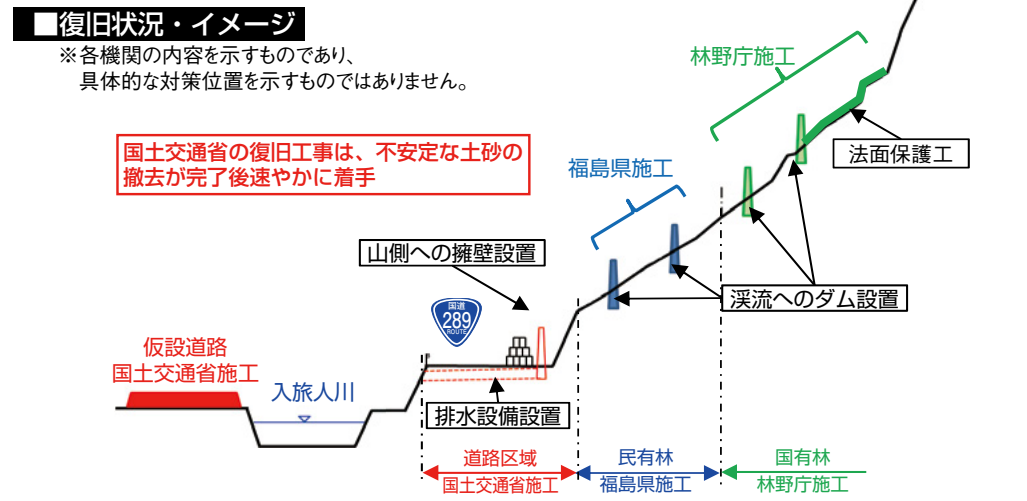
国直轄権限代行による 国道の応急復旧 (国道289号)



土砂崩落により通行止めとなった県管理の国道289号(いわき市田人町)について、土砂撤去・大型土のうの設置など緊急自動車等の交通の確保、仮設道路の設置による一般車両の交通確保及び、待受擁壁の設置等による本復旧について、国が直轄権限代行により実施しております。

- ・延長 約800m
- ・箇所 いわき市旅人町旅人～南大平

令和元年10月25日	福島県から国へ要望
令和元年10月29日	国直轄権限代行の実施決定及び着手
令和元年12月20日	緊急車両の通行を開始
令和2年 3月31日	一般車両の通行を開始



建設業等関連団体の対応(1)

福島県との災害応援協定を締結している関連団体より支援をいただきました。

一般社団法人福島県建設業協会

(1) 各支部の対応

出動作業人員数	延べ10,329人
出動機械台数	延べ 5,580台
出動会員企業数	158社(会員企業数244社)
対応箇所数	554箇所

(2) 協会本部の対応(県内各地への災害物資等支援)

土のう袋	30,200袋	大型土のう袋	1,500袋
ブルーシート	200枚	消石灰	500袋
10tダンプトラック	4台	バックホウ	3台

一般社団法人福島県測量設計業協会

対応人員数	延べ860人
対応会員企業数	34社(会員企業数 71社)

一般社団法人福島県地質調査業協会

対応人員数	延べ 14人
対応会員企業数	6社(会員企業数 14社)

一般社団法人福島県法面保護協会

対応人員数	延べ 4人
対応会員企業数	1社(会員企業数 21社)



写真提供:一般社団法人福島県建設業協会、一般社団法人福島県測量設計業協会

建設業等関連団体の対応(2)

県北浄化センター及び県営住宅において、応援協定を締結している関係団体(電設業協会、空調衛生工事業協会)へ建築設備の被害状況の調査を依頼しました。

- 県北浄化センター 令和元年10月18日調査完了
- 県営住宅4団地 令和元年10月15日調査完了

一般社団法人福島県電設業協会

対応人員数 延べ 60人
 対応会員企業数 5社(会員企業数 51社)

一般社団法人福島県空調衛生工事業協会

対応人員数 延べ 50人
 対応会員企業数 8社(会員企業数 50社)



被災者への県営住宅等の一時提供

住宅が被災し継続的な居住が困難となった方に、一時的な避難所として県営住宅(復興公営住宅を含む)及び既設応急仮設住宅の空き住戸を提供しました。

県営住宅

○提供戸数 256戸(令和元年11月28日時点)
 ※使用戸数 99戸(令和2年 6月30日時点)

応急仮設住宅(東日本大震災)

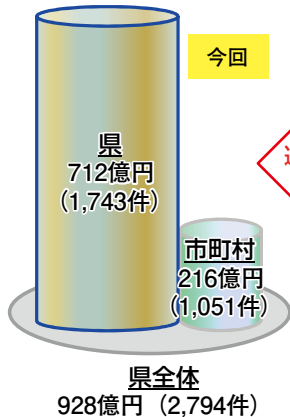
○提供戸数 1,525戸(令和元年10月25日時点)
 ※使用戸数 24戸(令和2年 7月 6日時点)



公共土木施設等 災害査定結果内訳

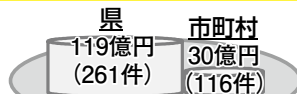
(令和2年2月14日現在)

工種	県			市町村			県、市町村合計		
	箇所数	金額 (百万円)		箇所数	金額 (百万円)		箇所数	金額 (百万円)	
河川	1,411	50,072	70.4%	473	8,387	38.8%	1,884	58,459	63.0%
海岸	1	460	0.6%			0.0%	1	460	0.5%
砂防設備	28	680	1.0%			0.0%	28	680	0.7%
道路	277	4,737	6.7%	495	6,130	28.4%	772	10,868	11.7%
橋梁	1	117	0.2%	24	3,781	17.5%	25	3,898	4.2%
港湾	4	119	0.2%			0.0%	4	119	0.1%
漁港	13	923	1.3%			0.0%	13	923	1.0%
下水道	1	12,688	17.8%	30	1,972	9.1%	31	14,660	15.8%
都市施設(公園等)			0.0%	23	835	3.9%	23	835	0.9%
住宅	7	1,360	1.9%	6	505	2.3%	13	1,865	2.0%
計	1,743	71,156	100.0%	1,051	21,610	100.0%	2,794	92,766	100.0%



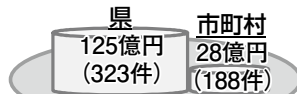
過去の10年の主な豪雨災害との比較
 ※豪雨災害としては戦後最大

平成23年7月豪雨 (新潟・福島豪雨)



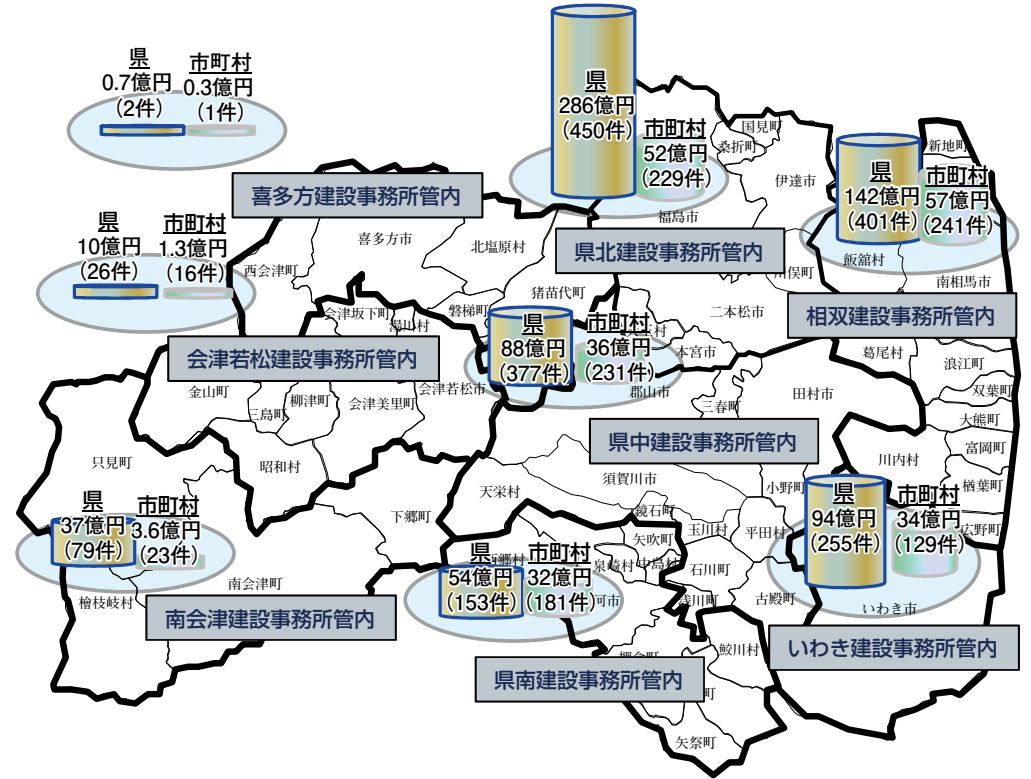
県全体 149億円 (377件)

平成27年9月豪雨 (関東・東北豪雨)



県全体 153億円 (511件)

管内別査定決定額



令和元年東日本台風等 管内別災害査定結果一覧

(令和2年2月14日現在)

(単位: 百万円)

管内	事業主体名	河川		海岸		砂防		道路		橋梁		下水道		都市施設(公園等)		港湾		漁港		住宅		合計			
		箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額		
県北	県	372	14,675			1	11	75	1,147			1	12,688							1	42	450	28,563		
	市町村	78	1,828					123	1,346	6	609	9	977	10	358					3	113	229	5,230		
計		450	16,503			1	198	198	2,493	6	609	10	13,666	10	358					4	154	679	33,793		
県中	県	342	8,243					11	34	524										1	2	377	8,768		
	市町村	94	1,730					122	1,312	1	25	9	295	5	244							231	3,606		
計		436	9,972					156	1,836	1	25	9	295	5	244							1	2	608	12,374
県南	県	129	4,758			6	174	18	478														153	5,410	
	市町村	97	1,300					75	841	5	1,049	2	6	2	7								181	3,202	
計		226	6,058			6	174	93	1,318	5	1,049	2	6	2	7								334	8,612	
会津若松	県	22	837					3	64	1	117												26	1,018	
	市町村	11	102					5	27														16	129	
計		33	939					8	91	1	117												42	1,147	
喜多方	県							2	67														2	67	
	市町村							1	28														1	28	
計								3	95														3	95	
南会津	県	71	3,512					8	205														79	3,717	
	市町村	10	196					13	167														23	363	
計		81	3,708					21	371														102	4,079	
相双	県	305	11,949			12	289	69	1,033							1	8	13	923	1	1	401	14,204		
	市町村	129	2,214					94	1,692	10	1,434	4	201	4	112								241	5,653	
計		434	14,164			12	289	163	2,725	10	1,434	4	201	4	112	1	8	13	923	1	1	642	19,857		
いわき	県	170	6,097	1	460	9	205	68	1,221							3	111					4	1,315	255	9,409
	市町村	54	1,018					62	717	2	664	6	492	2	115							3	393	129	3,398
計		224	7,115	1	460	9	205	130	1,938	2	664	6	492	2	115	3	111					7	1,707	384	12,808
合計	県	1,411	50,072	1	460	28	680	277	4,737	1	117	1	12,688			4	119	13	923	7	1,360	1,743	71,156		
	市町村	473	8,387					495	6,130	24	3,781	30	1,972	23	835					6	505	1,051	21,610		
計		1,884	58,459	1	460	28	680	772	10,868	25	3,898	31	14,660	23	835	4	119	13	923	13	1,865	2,794	92,766		

公共土木施設等復旧状況

令和2年7月末現在進捗率



■工種別

工種	査定箇所数	着工箇所数	着工率	完了箇所数	完了率
河川	1,411	877	62.1%	13	0.9%
海岸	1	0	0%	0	0%
砂防	28	13	46.4%	0	0%
道路	277	213	76.8%	14	5.0%
橋梁	1	0	0%	0	0%
下水道	1	1	100%	0	0%
港湾	4	4	100%	1	25.0%
漁港	13	13	100%	3	23.0%
住宅	7	7	100%	5	71.4%
合計	1,743	1,128	64.7%	36	2.0%

■方部別

方部	査定箇所数	着工箇所数	着工率	完了箇所数	完了率
本庁 (河川港湾)	6	6	100%	6	100%
県北	447	188	42.0%	1	0.2%
県中	376	285	75.7%	10	2.6%
県南	153	127	83.0%	5	3.2%
会津若松	26	20	76.9%	1	3.8%
喜多方	2	2	100%	0	0%
南会津	79	47	59.4%	0	0%
相双	400	263	65.7%	9	2.2%
いわき	254	190	74.8%	4	1.5%
合計	1743	1128	64.7%	36	2.0%

内帰還困難区域	33	12	36.3%	0	0.0%
---------	----	----	-------	---	------

主な復旧箇所



福島県緊急水災害対策プロジェクト

令和元年東日本台風等による災害を踏まえ、頻発化・激甚化する水災害への対応として、総合的な防災・減災対策の強化を目的に、令和6年度までに県が集中的に推進する取組を公表しました。

福島県緊急水災害対策プロジェクトの概要について

福島県緊急水災害対策プロジェクト

台風第19号等による災害を踏まえ、頻発化・激甚化する水災害への対応として、総合的な防災・減災対策の強化を目的に、令和6年度までに県が集中的に推進する取組
 予算規模：令和2年2月補正 約250億円、令和2年度当初 約460億円

【ハード対策】

- 1 改良復旧事業及び災害復旧事業の推進 ★
○ 台風19号による被災箇所での速やかな復旧と改良復旧事業を速やかに実施します。
- 2 河川の河道掘削及び伐木の推進 ★
○ 河川の河道掘削及び伐木を速やかに実施します。
- 3 河川改修及び堤防強化の推進 ★
○ 河川改修及び堤防強化を速やかに実施します。
- 4 土砂災害の推進 ★
○ 砂防・地すべり・急傾斜事業を速やかに実施します。

【ソフト対策】

- 5 危機管理型水位計の設置拡大 ★
○ 危機管理型水位計の新規設置を進めます。
- 6 河川監視カメラの新規設置を進めます。
○ 河川監視カメラの新規設置を進めます。
- 7 洪水浸水想定区域の公表の前倒し・拡大 ★
○ 水位周知河川及び洪水予報河川について、想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域の公表の前倒しと拡大を図ります。
- 8 福島県河川流域総合情報システムのサーバー強化 ★
○ アクセス集中時にも遅延無く表示ができるよう、システムを見直します。
- 9 ダムにおける事前放流に向けた体制構築 ★
○ ダムにおいて事前放流が実施できるよう、調整を進めます。
- 10 土砂災害警戒区域等の指定の推進
○ 住民の早期避難行動に繋がるよう、区域指定を推進します。

水災害対策協議会で抽出された課題 (★)

関係機関で検討が必要な項目 (★)

- ・情報伝達方針見直し
- ・住民の防災意識改革
- ・住民への情報提供
- ・ハザードマップ見直し
- ・排水ポンプ車早期配備
- ・広域避難検討
- ・台風想定時の避難訓練
- ・水防資機材の確保

国・市町村
 国・市町村気象合消防等による取組
 連携
 情報共有

1 改良復旧事業及び災害復旧事業の推進

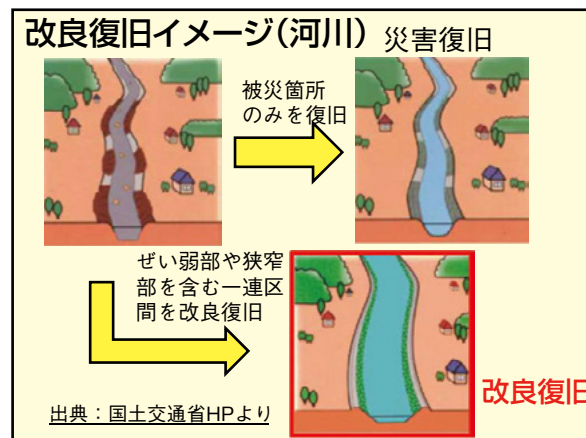
①改良復旧事業

事業箇所：8河川 9箇所

事業期間：令和元年度～3年(災害関連事業)

(予定) 令和元年度～5年(災害復旧助成事業)

計画概要：令和元年東日本台風により甚大な被害を受けた、いわき市の夏井川などにおいて、災害復旧とあわせて河川改良を行い、再度災害防止を図ります。



<参考>

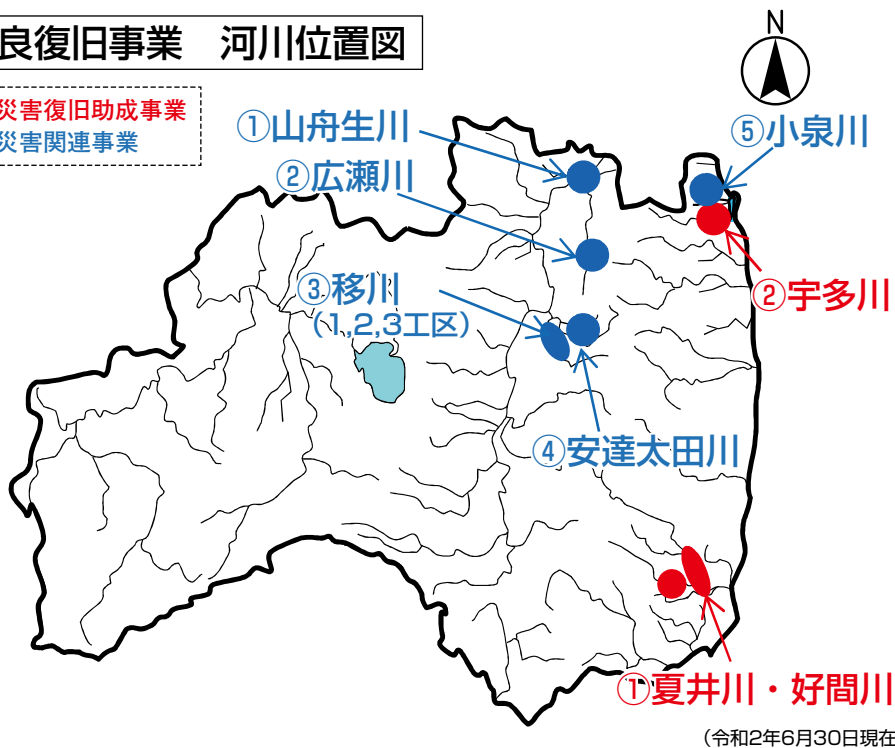
- 災害関連事業(関連)
被災箇所あるいは未被災箇所を含む一連の施設について、災害復旧事業費に関連費(改良費)を加えて実施する改良事業
改良費が6億円以下のもの
- 災害復旧助成事業(助成)
河川の災害が激甚であって、災害復旧工事のみでは十分な効果を期待できない場合において、災害復旧事業費に助成費(改良費)を加えて一定計画の下に施工する改良事業
改良費が6億円を超えるもの

事業名	河川名	箇所	延長 (m)	全体事業費※ (百万円)
災害復旧助成事業	①夏井川・好間川	いわき市	21,500	30,461
	②宇多川	相馬市	5,355	6,137
災害関連事業	①山舟生川	伊達市	1,885	830
	②広瀬川	川俣町	620	550
	③移川 (1,2,3 工区)	二本松市	2,179	2,270
	④安達太田川	二本松市	2,340	1,145
	⑤小泉川	相馬市	473	440
事業費計				41,833

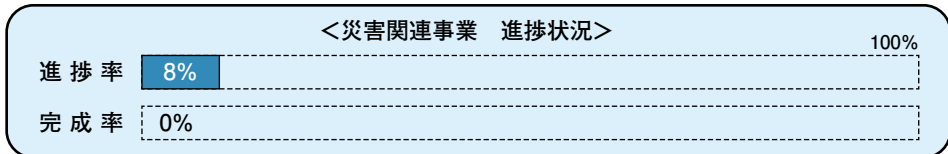
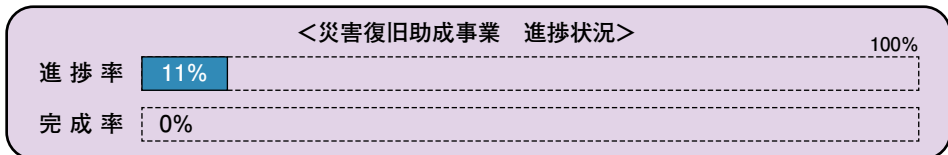
※助成・関連事業費のほか、現地の被災状況等を踏まえた堤防の強化や橋梁の架け替え工事費を加えています。

改良復旧事業 河川位置図

●：災害復旧助成事業
●：災害関連事業



(令和2年6月30日現在)



注)進捗率=契約額/全体事業費×100%、完成率=完成延長/全体計画延長×100%

②災害復旧事業

(令和2年6月30日現在)

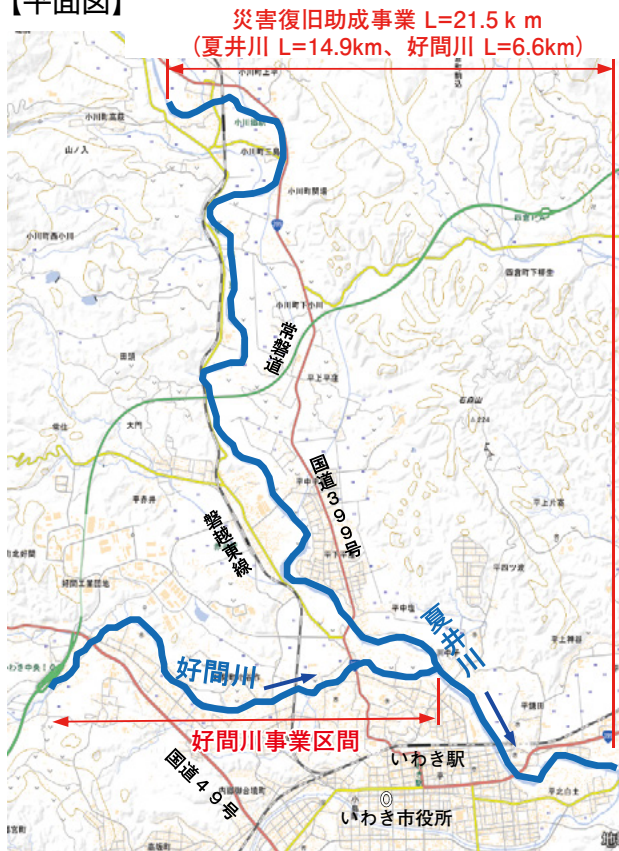
決定額 (億円)	全体箇所数	着手済み箇所数	完了箇所数
501	1,411	779	5

■主な事業箇所：夏井川災害復旧助成事業

【事業内容】

河川名：二級河川夏井川水系夏井川及び支川好間川
 事業箇所：福島県いわき市平塩地内外
 事業延長：L=21.5km (夏井川L=14.9km、好間川L=6.6km)
 事業期間：令和元年度～令和5年度(予定)
 全体事業費：約305億円(助成事業とあわせて県事業を含む)
 事業概要：河道掘削工、築堤工、護岸工、橋梁工等

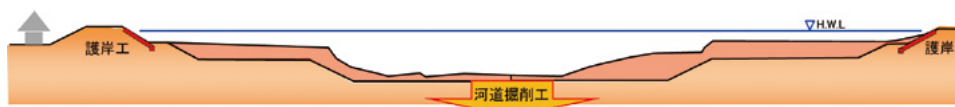
【平面図】



【被災状況写真】



【横断面図(イメージ)】



■主な事業箇所：宇多川災害復旧助成事業

【事業内容】

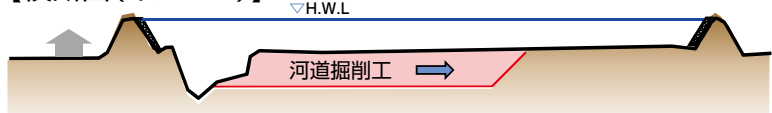
- 河川名 : 二級河川宇多川水系宇多川
- 事業箇所 : 福島県相馬市北飯淵地内外
- 事業延長 : L=5,355m
- 事業期間 : 令和元年度～令和5年度(予定)
- 全体事業費 : 約61.4億円
(助成事業とあわせた県事業を含む)
- 事業概要 : 河道掘削工、護岸工、堰 等



【平面図】



【横断図(イメージ)】



【被災状況写真】

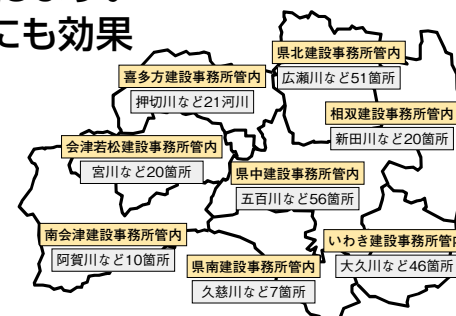


2 河川の河道掘削及び伐木の推進

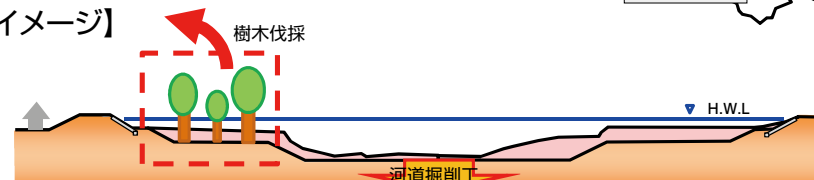
河道断面を拡大する「河道掘削」と流木被害解消を目的とした伐木を推進します。事業後の維持管理費用の削減にも効果があります。

【事業内容】

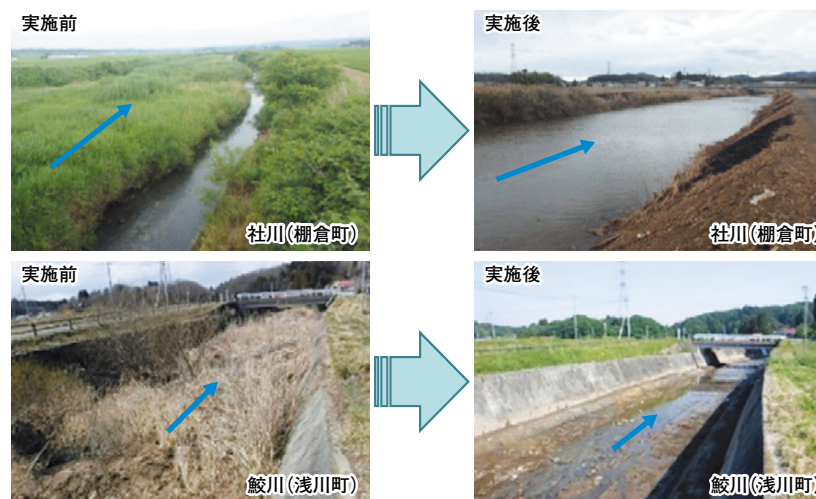
- 事業箇所 : 社川(棚倉町)など231箇所
- 事業期間 : 令和2年度～令和6年度
- 事業概要 : 河道掘削、伐木



【事業のイメージ】



【実施状況写真】



(令和2年6月30日現在)

全体箇所数	着手済み箇所数	完了箇所数
231	23	0

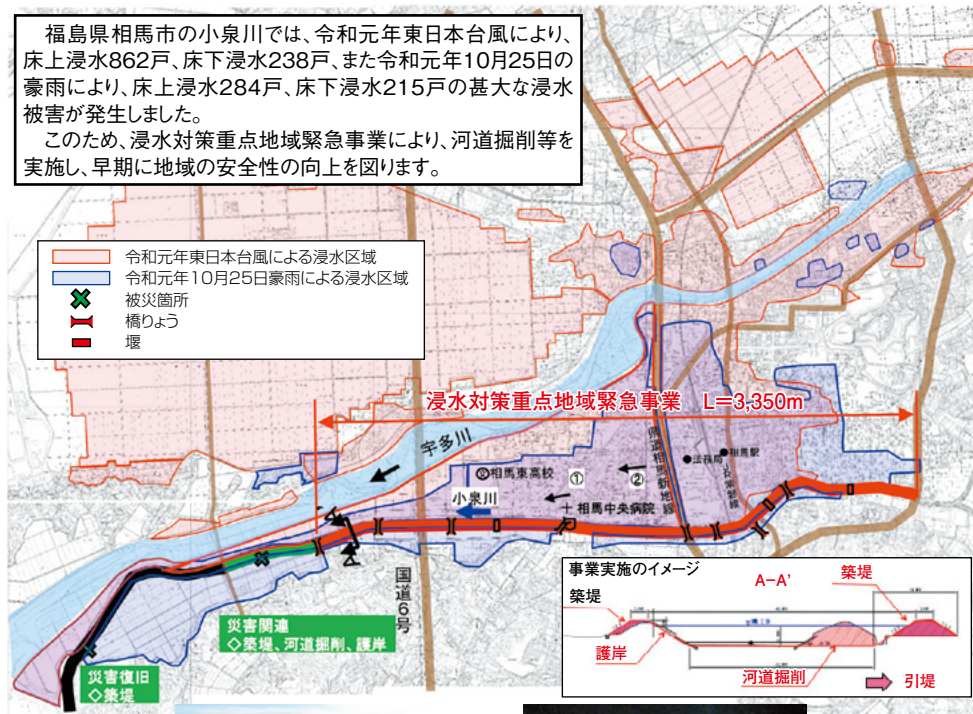
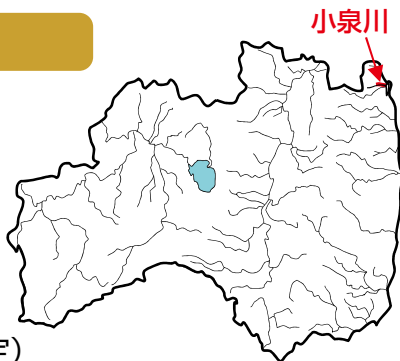
3-1 河川改修の推進

① 浸水対策重点地域緊急事業

■ 小泉川水系小泉川

【事業内容】

- 河川名 : 二級河川小泉川水系小泉川
- 事業箇所 : 相馬市
- 事業延長 : L=3,350m
- 事業期間 : 令和2年度～令和6年度(予定)
- 全体事業費 : 約60億円
- 事業概要 : 河道掘削工、築堤工、護岸工、橋梁工、堰、用地補償等



② 新規着手事業の推進

甚大な被害を受けた6河川については、令和2年度から新たに*個別補助事業等を進めていきます。

*個別補助事業とは、計画的・集中的な対策を実施することで、早期の治水安全度の向上を図るもの。

【事業内容】

- 河川名 : 阿武隈川水系 塩野川(伊達市)、佐久間川(桑折町)、滝川(国見町・伊達市)、濁川(福島市)、谷田川(郡山市)、山舟生川(伊達市)
- 事業期間 : 令和2年度～
- 全体事業費 : 約66億円(見込)
- 事業概要 : 河道掘削、築堤等による阿武隈川本川の背水対策

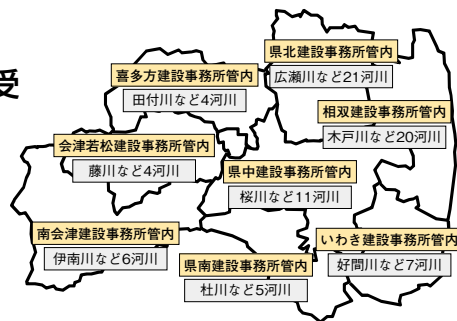


③ 緊急的な一定箇所改修

令和元年東日本台風による被害を受け、緊急的に一定箇所を改修します。

【事業内容】

河川名 : 安達太良川(本宮市)など
78河川
事業期間 : 令和元年度～
全体事業費 : 約131億円



【整備箇所写真】



(令和2年6月30日現在)

事業費(億円)	対象河川数	着手済み河川数	完了河川数
131	78	28	0

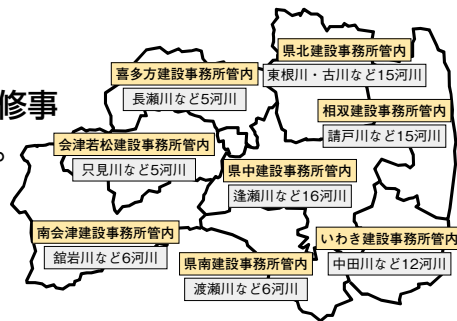
④ 継続河川改修事業の整備促進

これまで継続的に実施してきた河川改修事業のさらなる整備促進を図っていきます。

【事業内容】

河川名 : 逢瀬川(郡山市)など80河川

【整備箇所写真】



(令和2年6月30日現在)

3-2 堤防強化の推進

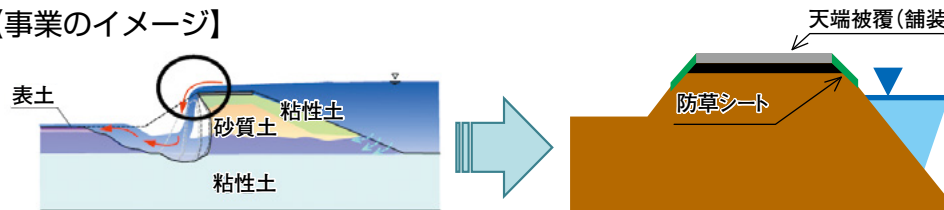
河川堤防天端を被覆(舗装)により補強します。除草必要面積の低減と利用者(歩行者や自転車)の利便性向上にも寄与します。

【事業内容】

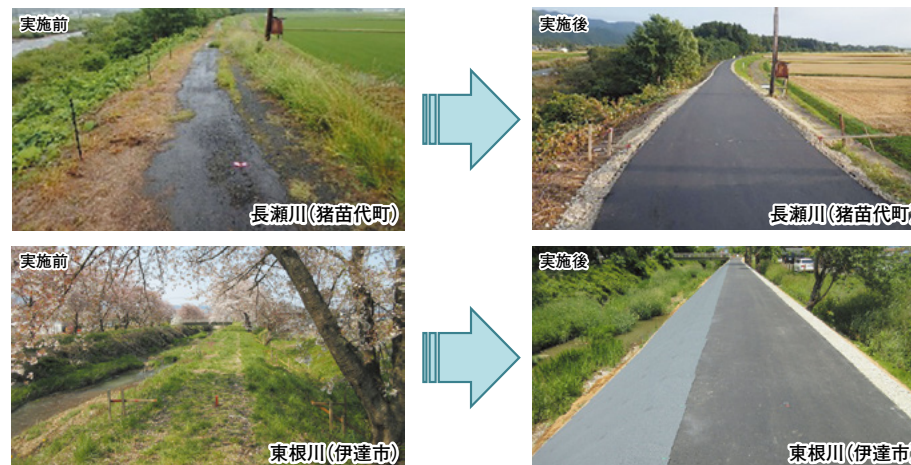
河川名 : 東根川(伊達市)など
97河川
事業期間 : 令和2年度
～令和6年度



【事業のイメージ】



【整備箇所写真】



(令和2年6月30日現在)

対象河川数	着手済み河川数	完了河川数
97	0	0

4 土砂災害対策の推進

①災害関連事業

緊急砂防等災害関連事業を緊急的に実施し、土砂災害対策を推進していきます。

緊急砂防等災害関連費 事業費：3.1億円(令和元年度年間所要額)



②土砂災害対策の推進

これまで継続してきた土砂災害対策事業のさらなる整備促進を図っていきます。



砂防堰堤等により
下流での氾濫を防止する



(令和2年6月30日現在)

対象箇所数	着手済み箇所数	完了箇所数
172	41	1



5 危機管理型水位計の設置拡大

人家や重要施設など浸水の危険が高く、的確な避難判断のための水位観測が必要な箇所に洪水時の観測に特化した危機管理型水位計を設置します。

(令和2年6月30日現在)

設置予定箇所数	設置済み箇所数
373	331



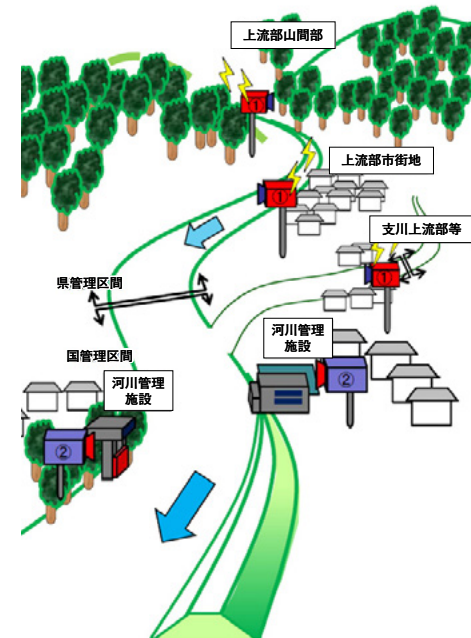
6 簡易型河川監視カメラの設置拡大

人家や重要施設など浸水の危険が高く、的確な避難判断を促すことが必要な箇所に簡易型河川監視カメラを設置します。



(令和2年6月30日現在)

設置予定箇所数	設置済み箇所数
124	3



設置済みのカメラの情報は
下記HPで確認できます。
「川の水位情報」 →
<https://k.river.go.jp/>



7 洪水浸水想定区域の公表の前倒し・拡大

水位周知河川追加指定予定の県管理31河川について、早期作成・公表を目指します。

あわせて、浸水想定区域図作成も順次進めます。

(令和2年6月30日現在)

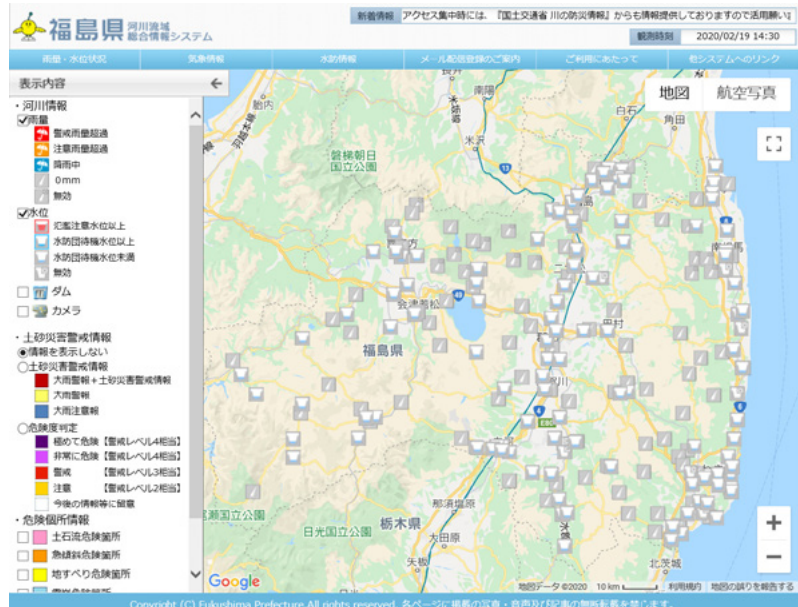
洪水浸水想定区域作成予定河川数	作成済河川数
63	22

策定済みの洪水浸水想定区域図は下記HPで確認できます。
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41045b/kouzuisinsou.html>



8 福島県河川流域総合情報システムのサーバー強化

令和東日本台風ではアクセスが集中し、アクセス性が低下したため、サーバー強化によりアクセス性を改善します。

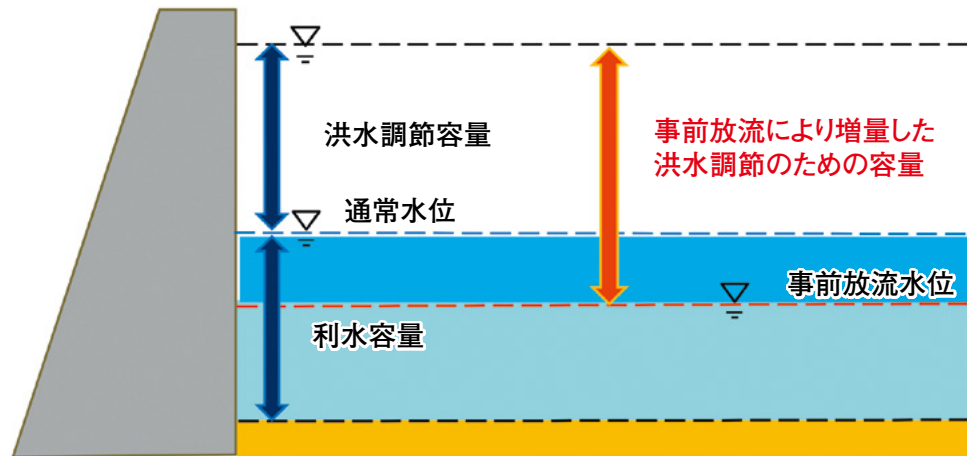


福島県河川流域総合情報システム
<http://kaseninf.pref.fukushima.jp/gis/>



9 ダムにおける事前放流に向けた体制構築

一級水系の阿武隈川・阿賀野川と二級水系の既存ダムにおいて、大雨が予想される場合、事前に利水容量の一部を放流することで、洪水調節のための容量を増量し、下流河川の氾濫や浸水被害の軽減を図る事前放流等の取り組みを進めています。



■一級水系(県管理ダム)

- 阿武隈川水系の「堀川ダム」、阿賀野川水系の「日中ダム、東山ダム、田島ダム」において、令和2年5月29日に関係機関と治水協定を締結し、事前放流の運用を開始しています。

【参考】 県土木部管理ダム以外のダム(福島県内)

- 阿武隈川水系：摺上川ダム(東北地方整備局)など全12ダム
- 阿賀野川水系：大川ダム(北陸地方整備局)など全24ダム

■二級水系(県管理ダム)

- 鮫川水系の「高柴ダム、四時ダム」は令和2年5月26日、真野川水系の「真野ダム」、夏井川水系の「小玉ダム、こまちダム」は令和2年8月31日に治水協定を締結し、運用を開始しています。

【参考】 県土木部管理ダム以外のダム

- 宇多川水系：松ヶ房ダム
- 新田川水系：高の倉ダム、風兼ダム
- 太田川水系：横川ダム、鉄山ダム

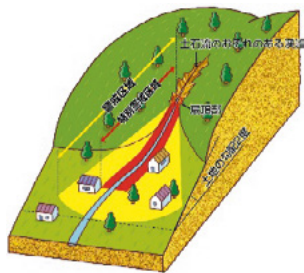
10 土砂災害警戒区域等の指定の推進

住民の早期避難行動に繋がるよう、区域指定を推進します。

土砂災害防止法に基づき、県が基礎調査を行い、土砂災害警戒区域等を指定します。

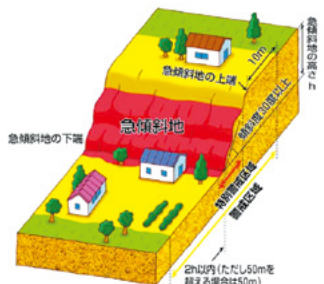
7,983箇所基礎調査の結果の公表は完了。(令和元年9月)

【土砂災害警戒区域等の模式図】



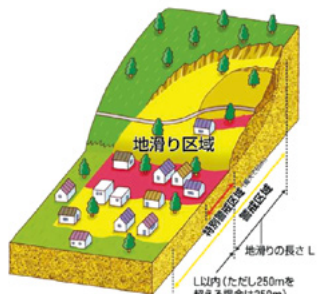
土石流

※山腹が崩壊して生じた土石等又は渓流の土石等が水と一体となって流下する自然現象



急傾斜地の崩壊

※傾斜度が30°以上である土地が崩壊する自然現象



地すべり

※土地の一部が地下水等に起因して滑る事前現象又はこれに伴って移動する自然現象



説明会の状況

土砂災害警戒区域等の指定にあたっては、地域の方等を対象に説明会を実施しています。

(令和2年6月30日現在)

全体箇所数	指定済箇所数
7,983	6,318

スケジュール

事項毎に、緊急度に応じて1～5年の目標年度を設定し、速やかな進捗に努めてまいります。

		プロジェクト期間						
		R元.12~R2.2補正	R2	R3	R4	R5	R6	R7以降
ハード対策	1 ①改良復旧事業の推進(3年)	■	■	■				
	1 ①改良復旧事業の推進(5年)	■	■	■	■	■		
	1 ②災害復旧事業の推進	■	■	■				
	2 河川の河道掘削及び伐木の推進		■	■	■	■	■	■
	3-1 ①河川改修の推進(緊急対応)	■	■	■				
	3-1 ②河川改修の推進(一定区間改修)		■	■	■	■	■	■
	3-1 ③河川改修の推進		■	■	■	■	■	■
	3-2 堤防強化の推進		■	■	■	■	■	■
	4 ①土砂災害対策の推進(災害関連)		■	■	■	■	■	■
	4 ②土砂災害対策の推進(緊急対応)		■	■	■	■	■	■
ソフト対策	4 ②土砂災害対策の推進		■	■	■	■	■	■
	5 危機管理型水位計の設置拡大	■	■	■	■	■	■	■
	6 河川監視カメラの設置拡大	■	■	■	■	■	■	■
	7 洪水浸水想定区域の公表の前倒し	■	■	■				
	7 洪水浸水想定区域の公表の拡大		■	■	■	■	■	■
	8 福島県河川流域総合情報システムのサーバー強化	■	■	■	■	■	■	■
	9 ダムにおける事前放流に向けた体制構築	■	■	■				
	10 土砂災害警戒区域等の指定の推進	■	■	■	■	■	■	■

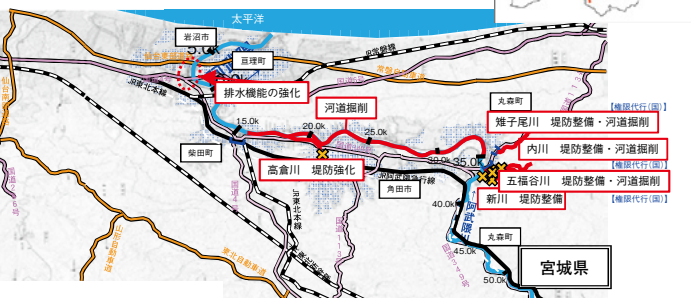


水災害対策協議会の状況

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

令和元年東日本台風に伴う洪水により、阿武隈川本川や支川では堤防決壊、越水等が多発し、流域全体で甚大な浸水被害となりました。この災害を踏まえ、国を中心に関係機関が連携し、ハード整備・ソフト対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策を実施し、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指します。

- 全体事業費 約1,840億円
- 事業種別
- 改良復旧事業
 - 国：阿武隈川上流（福島県内）
全体事業費 約999億円
事業期間 令和元年度～令和10年度
 - 国：阿武隈川下流（宮城県内）
全体事業費 約215億円
事業期間 令和元年度～令和6年度
 - 福島県： 約66億円
 - 宮城県： 約18億円
- 災害復旧事業
 - 国：阿武隈川上流（福島県内）
全体事業費 約130億円
事業期間 令和元年度～令和2年度
 - 国：阿武隈川下流（宮城県内）
全体事業費 約99億円
事業期間 令和元年度～令和2年度
 - 福島県： 約268億円
 - 宮城県： 約44億円



※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

※国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所公表資料より一部抜粋

①河川における治水対策の推進 【ハード整備】約1,840億円

■観測史上最高水位を更新するほどの大規模な洪水により、本川・支川で越水・溢水、堤防決壊、内水氾濫等が多数発生

→本川の水位を低下させる対策、支川における堤防強化等の治水対策を推進

<主なメニュー案>

- ・国・県管理河川の堤防決壊箇所等、被災した河川管理施設の「災害復旧」の推進
- ・現在 実施中の「堤防整備」等の早期完成
- ・「河道掘削、樹木伐採」等の推進、「河川整備計画」に位置づけられている「河川の水位を低下させる対策」等の順次検討・着手
- ・本川の背水影響が及ぶ支川等の「堤防強化」、「準用河川」の整備促進
- ・内水が顕著な河川等における「排水機能の強化及び耐水化」
- ・既存ダムの洪水調節機能強化

②減災型都市計画の展開

■沿川都市の都市化の進展により低平地の新興住宅地等での浸水リスクが顕在化

→沿川地域における住まい方、まちづくりの工夫の推進

<主なメニュー案>

- ・浸水リスクを考慮した「立地適正化計画」の展開
- ・支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」の作成
- ・「特定都市河川」制度に準じた流域対策（例：雨水貯留施設等）
- ・高頻度で浸水する区域の「災害危険区域」等の指定



③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

■本川や支川の氾濫、内水など、地区毎に異なる氾濫形態が避難行動に影響

→的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進

<主なメニュー案>

- ・支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良
- ・浸水想定区域における「町内会版タイムライン」の策定・普及、訓練の実施
- ・危機管理型水位計の活用による「地区ごとの避難体制」の構築
- ・県管理の水位周知河川及び国管理ダム下流等の「洪水浸水想定区域」の早期公表

④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

■本川上流部では、背水が支川の氾濫にも影響

→本川合流部周辺における支川の減災対策の推進

<主なメニュー案>

- ・本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」の設置等
- ・本川の背水影響が及ぶ区間に設置した危機管理型水位計と連動した地区ごとの「避難計画」の策定



⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

→地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進

<主なメニュー案>

- ・流出抑制・氾濫抑制の取組、住民参加型の防災訓練、マスメディアと連携した情報発信 等

※国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所 公表資料より一部抜粋

災害復旧

国や関係機関の協力をいただきながら、災害査定や各種協議に取り組みました。



矢祭町道(高地原橋)は、被害が甚大で緊急性が高いことから、矢祭町と覚書を締結し、県が受託工事として本復旧工事を進めております。



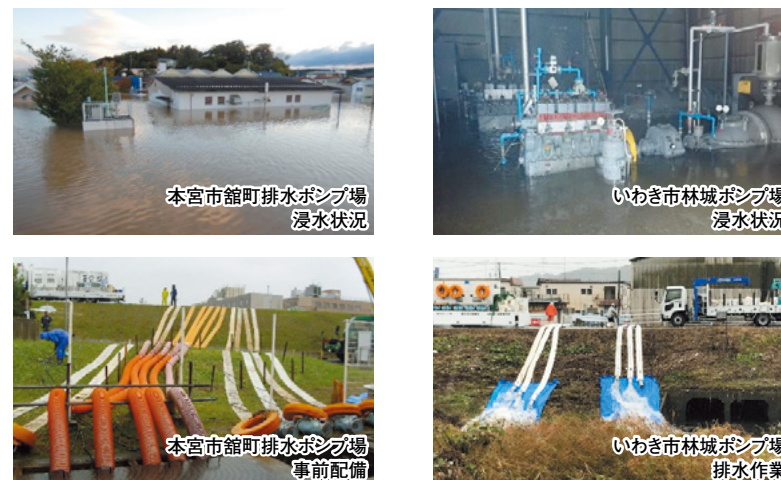
し尿処理施設の応急対応

郡山市富久山クリーンセンター衛生処理センターが浸水し、処理機能が停止したため、郡山市下水道管理センター(郡山市横塚)を経由し、県管理の県中浄化センターにおいて、し尿の受け入れを行いました。

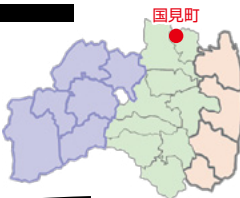


排水ポンプ場の応急対応

本宮市舘町排水ポンプ場といわき市林城ポンプ場が浸水したため、国土交通省と調整を行い、排水ポンプ車の手配を行いました。



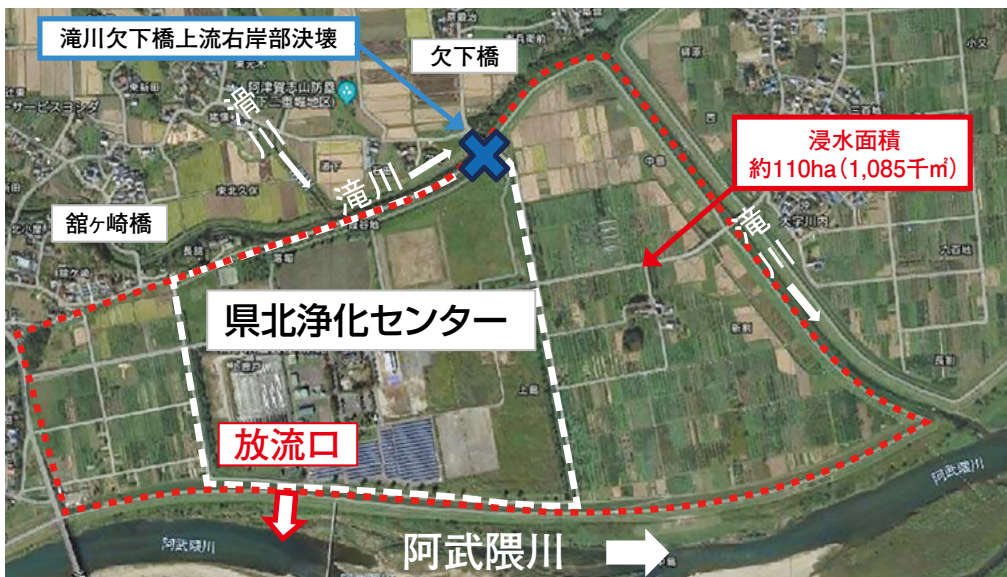
県北浄化センター 被災対応と水質 改善の取組について



県北浄化センターの被災状況

【概要】

- ・滝川の決壊により処理場が約4.8m浸水。
- ・浸水で一階部、地下部が全て水没し、機械、電気設備が被災。
- ・処理場は一時機能不全となるが、下水は通常どおり流入。
- ・下水処理を行いながら施設復旧を推進。
- ・発災から概ね2年での施設復旧を目標。



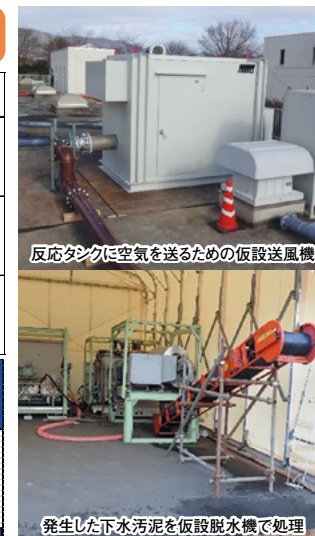
段階的な水質改善に向けた取組



塩素消毒による【緊急措置】 令和元年10月15日～	【応急処理(沈殿+塩素消毒)】 令和元年10月25日～	【簡易生物処理】 令和元年12月9日～
液体塩素を投入	仮設ポンプで揚水し、既設水処理施設で沈殿	微生物を活性化するため反応タンクに送風

復旧スケジュール

ステップ	処理種別	処理方法	内容	被災	1ヶ月程度	2～3年程度	2～3年以降
1	緊急措置	・塩素消毒	場内の水が引き次第、既存水路などで塩素消毒を行い放流	緊急措置			
2	応急復旧	・沈殿⇒(簡易処理)⇒消毒 (段階的に処理の質を高める)	塩素消毒に加え、一時貯留などで沈殿処理、簡易的な生物処理を行い放流	施設修繕・改修		簡易処理	
3	本復旧	・最初沈殿池⇒反応タンク⇒最終沈殿池	被災前に行っていた通常の高級処理	高レベル		復旧方法の検討 復旧工事	高級処理
処理状況		緊急措置	沈殿+消毒		沈殿+簡易生物処理+消毒		沈殿+生物処理+消毒
放流水質 BOD 目標 (mg/ℓ)		2000	120		60		15



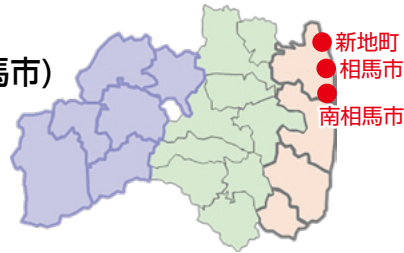
各公共土木施設の漂着物処理について

福島県で管理する漁港・港湾海岸において、台風による波浪及び高波の影響により漂着した流木やゴミ等の漂着物について、除去及び清掃作業を実施し、海岸を保全しました。

○除去作業対象海岸(港湾・漁港)

- ・松川浦漁港海岸、相馬港海岸(相馬市)
- ・釣師浜漁港海岸(新地町)
- ・真野川漁港海岸(南相馬市)

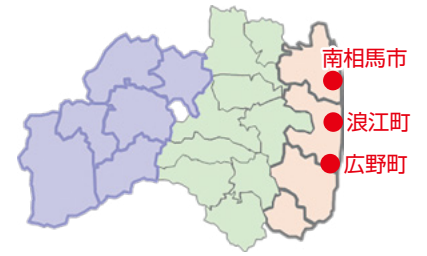
○回収量 2,324m³



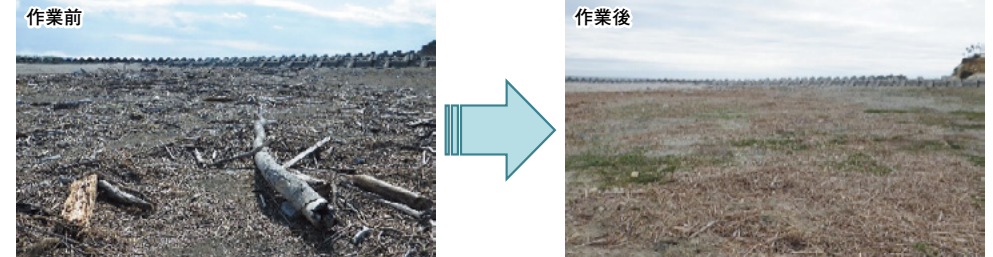
■松川浦漁港海岸(相馬市)



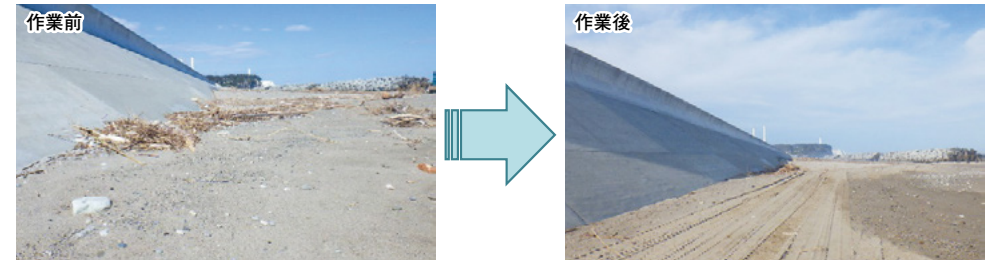
- 除去及び清掃作業海岸
 - ・北泉大磯海岸(南相馬市)
 - ・棚塩海岸(浪江町)
 - ・下浅見海岸、夕筋海岸(広野町)
- 回収量 35.7t



■北泉大磯海岸(南相馬市)



■下浅見海岸(広野町)



高柴ダム(いわき市)において、台風の大雨の影響により漂着した流木やゴミ等の漂着物について、国との事前協議を行い、早期に応急本工事(除去作業)に着手し、ダムの機能維持に取り組みました。



○流木等除去 V=2,200空m³



復旧体制構築に向けた土木部の取組

災害対策本部員会議

知事をはじめ各部局長が、令和元年東日本台風の被害状況や今後の対応などについて情報共有を図るための会議で、41回開催した。土木部長が参加。
(令和元年10月13日～令和2年3月12日)



土木部本部員会議

土木部本庁幹部職員が、令和元年東日本台風に伴う部の対応などの情報共有を図るための会議で、64回開催した。
(令和元年10月12日～令和元年12月27日)



土木部におけるリエゾン(情報連絡員)との連携

【土木部本部会議に加わっていただいた皆様】

省庁	所属※	役職※	氏名
国土交通省	総合政策局公共事業企画調整課	アセットマネジメント企画調整官	小長井彰祐
国土交通省	東北地方整備局企画部	震災対策調整官	町屋 政蔵
国土交通省	水管理・国土保全局治水課流域減災推進室	企画専門官	中須賀 淳
国土交通省	東北地方整備局郡山国道事務所	事業対策官	宍戸 善博
国土交通省	水管理・国土保全局水資源部水資源政策課	企画専門官	竹内 久一
国土交通省	東北地方整備局道路部	地域道路調整官	大村 敦

※令和元年10月～12月の所属及び役職



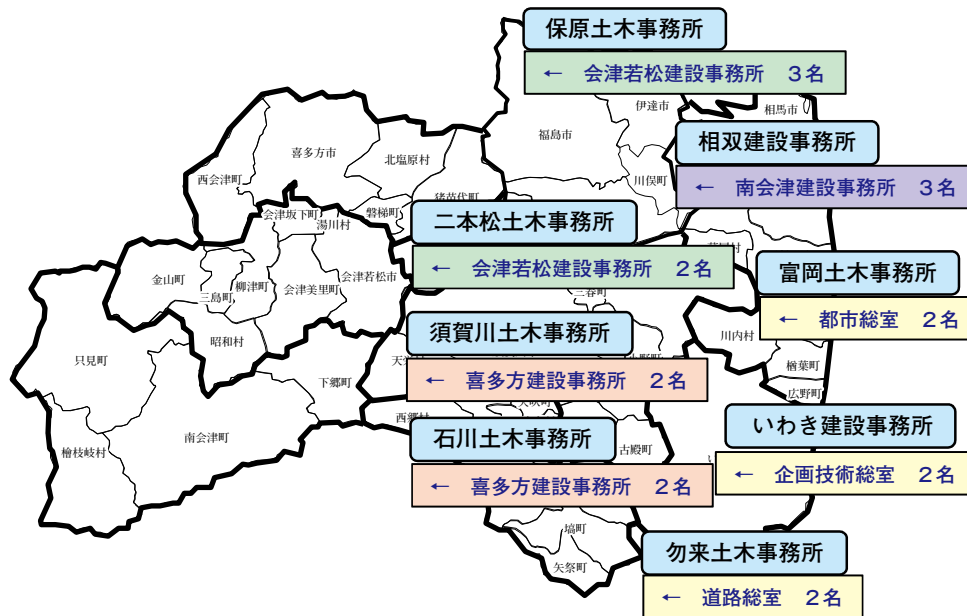
土木部本部員会議への参集



被災箇所の現地調査

土木部の応援体制

災害調査や応急工事、災害査定設計書作成のため、県庁及び比較的被害の少ない会津方面から、被害の大きい県北、県中、相双、いわき管内に職員を派遣しました。(令和元年11月18日～令和2年1月31日)



応援職員(本庁)に対する土木部長からの激励
(令和元年10月17日)



企画技術総室からいわき建設事務所への応援の状況

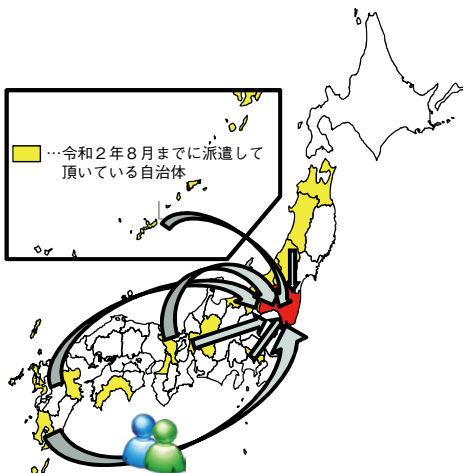
自治法派遣職員の配置状況

全国知事会を通じて職員派遣要請を行い、応援職員を確保しました。

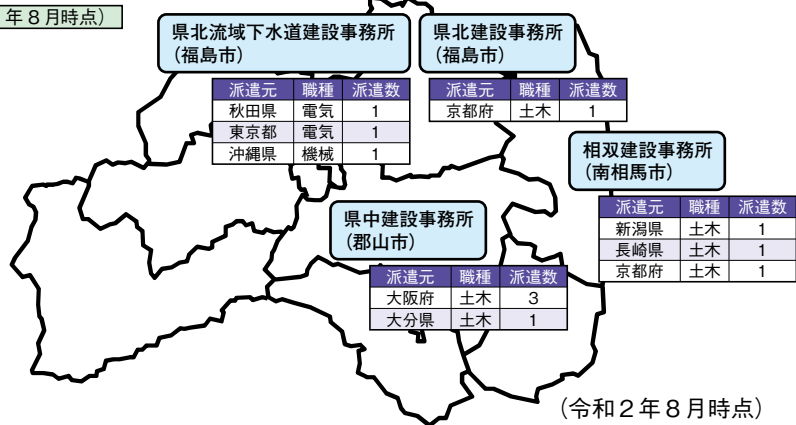
令和2年8月までに、1都2府10県から応援をいただいております。

■自治法派遣職員の配置実績

事務所名	派遣自治体	期間	人数
県北建設事務所 (福島市)	京都府	R1.12.1 ~ R2.3.31	3名
	京都府	R2.8.1 ~	1名
	青森県	R2.2.1 ~ R2.3.31	1名
	山形県	R2.2.1 ~ R2.3.31	1名
	高知県	R1.12.7 ~ R2.3.31	1名
県中建設事務所 (郡山市)	大阪府	R1.12.1 ~	3名
	大分県	R2.4.1 ~	1名
相双建設事務所 (南相馬市)	長崎県	R2.1.1 ~	1名
	新潟県	R2.1.14 ~	1名
	京都府	R2.8.1 ~	1名
いわき建設事務所(いわき市)	鹿児島県	R2.1.1 ~ R2.3.31	1名
県北流域下水道 建設事務所(福島市)	岐阜県	R2.1.1 ~ R2.3.31	1名
	秋田県	R2.4.1 ~	1名
	東京都	R2.4.1 ~	1名
	沖縄県	R2.4.1 ~	1名



派遣継続中(令和2年8月時点)



(令和2年8月時点)

その他

県北浄化センター(国見町)の応急復旧や本復旧計画の策定支援のため、令和元年10月28日~11月15日の間、国土交通省から2名、宮城県から6名、仙台市から2名、下水道事業団から1名、合計11名の支援をいただきました。



京都府・大阪府(各3名)からの派遣職員への土木部長からの激励(令和元年11月11日)

INTERVIEW

インタビュー

全国各地から派遣職員の応援をいただいています!



応援職員による災害対応の様子

派遣職員として 福島へ恩返し

沖繩県から派遣職員として、4月1日に着任しました。派遣前は土木建築部施設建築課で保有施設の機械設備の工事発注や現場監督をしていました。首里城が火災で焼失した際には福島県の皆さんからもたくさんのお金をいただき、恩返しを

力を合わせ、 日常を取り戻したい

したいという思いがありました。また、災害時の初動体制を学びたかったため今回の災害の派遣依頼に希望を出しました。

東日本台風で浸水被害を受けた県北浄化センターの機械設備の応急仮工事をしながら、本復旧工事を進めていきます。本復旧は来年度中の終了を目指しているのですが、皆さんには引き続き節水のご協力をお願いいたします。災害は、またいつ起こるか分かりません。いち早く日常に戻れるよう、今までの

経験をかきながら、福島県の皆さんと力を合わせて復旧を進めていきます。福島県に来て、見る景色全てが新鮮です。ご当地グルメを食べたり、冬はウインタースポーツなど、福島県でしかできないことにも挑戦したいです。



お話を伺った桃原拓来さん(中央)と東京都からの応援職員・小池勝己さん(右)、秋田県からの応援職員・清水遼典さん(左)

つながるふくしまゆめだより令和2年6月号から抜粋

本県の復旧に応援いただいている派遣職員の皆さま

令和2年6月現在



県中建設事務所
谷田川にて(郡山市)



相双建設事務所
事務所にて(南相馬市)



県北流域下水道建設事務所
県北浄化センターにて(国見町)

○令和元年度に応援いただいた派遣職員の皆さま



県北建設事務所
事務所にて(福島市) R1/11/11~12/11



県北建設事務所
事務所にて(福島市) R1/12/11~12/27



県北建設事務所
事務所にて(福島市) R2/1/6~1/31



県北建設事務所
事務所にて(福島市) R2/1/31~2/28



県北建設事務所
事務所にて(福島市) R2/2/28~3/31



いわき建設事務所
事務所にて(いわき市)